

どんなに窮地に陥っても、  
人道に背くことはできない。

『猛虎行』

陸機

中国、西晋の文学者。呉の名門貴族の家に生まれたが、呉の滅亡後、洛陽に入る。宰相張華に認められ出世したが、政争に巻き込まれて殺された。張華に、詩才がありすぎると評されるほどの天才的作家であり、その詩は対句を用い修辭に富み、齊梁文学の先駆けとなっている。特に「文賦」は、中国文学理論の代表的著作として名高い。

渴<sup>かつ</sup>しても盗泉<sup>とうせん</sup>の水を飲まず  
熱<sup>あつ</sup>しても悪木<sup>あくぼく</sup>の陰<sup>かげ</sup>に息<sup>いき</sup>わず

陸機

裏面もご覧ください。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国<sup>うるわ</sup>ぶり」

神道知識の誘<sup>いざな</sup>ひ「鈴<sup>すず</sup>振<sup>ふ</sup>り」

多くの神社では拜殿の中央に大きな鈴が吊るされています。では、拜む前に鈴を振るのは何故でしょう。鈴という道具の本来の目的は、楽器の一つとしてつくられたもので、形こそ違いますが世界中で用いられています。日本では楽器のほか、鈴の音に除魔の霊力があるとされ、神を祭るときに鈴が振られるようになりました。つまり、拜む前に鈴を振ることは「鈴の清らかな音によって参拝者を祓う」と同時に、「神霊の発動を願う為」と考えることが出来ます。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

